



平成25年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年5月10日

上場会社名 株式会社メディックグループ 上場取引所 東  
 コード番号 2369 URL http://www.medibic.com  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 喜多見 浩次  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 三坂 大作 (TEL) 03-3222-0132  
 四半期報告書提出予定日 平成25年5月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年12月期第1四半期の連結業績(平成25年1月1日～平成25年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第1四半期	47	△41.9	△65	—	△78	—	△82	—
24年12月期第1四半期	82	184.5	△9	—	△5	—	△6	—

(注) 包括利益 25年12月期第1四半期 △73百万円(—%) 24年12月期第1四半期 2百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年12月期第1四半期	△3.19	—
24年12月期第1四半期	△0.31	—

(注) 当社は、平成24年7月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年12月期第1四半期	499	442	88.3
24年12月期	412	365	86.2

(参考) 自己資本 25年12月期第1四半期 440百万円 24年12月期 355百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年12月期	—	—	—	—	—
25年12月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年12月期の連結業績予想(平成25年1月1日～平成25年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	133	23.4	△58	—	△65	—	△88	—	△3.95
通期	298	44.0	△112	—	△117	—	△142	—	△6.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、四半期決算短信【添付資料】4ページ「2. サマリー情報 (注記事項)に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	25年12月期1Q	26,254,720株	24年12月期	24,629,720株
② 期末自己株式数	25年12月期1Q	一株	24年12月期	一株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	25年12月期1Q	25,859,720株	24年12月期1Q	20,344,200株

(注) 当社は、平成24年7月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行いましたが、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	P. 2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	P. 3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	P. 3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	P. 4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P. 4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P. 4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	P. 4
4. 四半期連結財務諸表	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
四半期連結損益計算書	P. 7
四半期連結包括利益計算書	P. 8
(3) 継続企業の前提に関する注記	P. 9
(4) セグメント情報等	P. 9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	P. 10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、欧州財政問題、新興国経済成長の鈍化など不安定要素のあるなか、経済再生を掲げた政府による金融財政政策への期待感から、円高是正、株価上昇などが進行し、輸出関連業種を中心に業績回復の兆しがみられ始めました。

当社グループを取り巻く環境としましては、政府が推進する医療イノベーションの取り組みのもと、「創薬」の強化、「再生医療」「個別化(テーラーメイド)医療」の育成・実用化に向けた資金支援や環境整備等が進められるなか、官民ともにゲノムコホート研究、バイオバンク基盤整備、医療インフォマティクス整備などの取り組みが活発化しました。

このような状況のもと当社グループは、検体バンキングサービスを中心としたPGxサービスソリューションの営業強化及び薬剤と副作用のリスク判断を行う「おくすり体質検査」の販売を積極的に進めてまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における連結業績、セグメントの業績は、次のとおりであります。

	実績(千円)	対前年同期増減(千円)
売上高	47,675	34,444 減
営業損失	△65,972	56,810 増
経常損失	△78,358	72,492 増
四半期純損失	△82,394	76,075 増

## ① バイオマーカー創薬支援事業

バイオマーカー創薬支援事業につきましては、PGx試験支援サービスの主体となる検体バンキングサービス、検体管理システム販売、RNA増幅試薬の販売及び臨床試験サポートを、国内外の製薬メーカー、アカデミック・研究機関に対して提供してまいりました。

検体管理・匿名化システムや研究用試薬の販売においては、再生医療分野の推進により売上が増加傾向にあるものの、主力の検体バンキングサービスにおいては、コンサルテーション、ウェット解析などを中心に新規顧客開拓に注力してまいりましたが、大口受注の減少によりバイオマーカー創薬支援事業の売上高は46,110千円(前年同四半期比22.6%減)、セグメント利益(営業利益)は10,364千円(前年同四半期比68.4%減)となりました。

## ② テーラーメイド健康管理支援事業

テーラーメイド健康管理支援事業につきましては、PGx試験支援サービスにおけるノウハウを活用した個人向け健康管理支援サービスとして、『おくすり体質検査』『CYP2D6遺伝子検査』などの販売をクリニック、調剤薬局などを通じて行ってまいりました。

ベースとなるおくすり体質検査は、主に調剤薬局からの引き合いが増えており、各種メディアでの露出効果もあり、薬による副作用発症リスク判定を遺伝子レベルで手軽に行うことができる検査として、徐々にではありますがその有用性が広がってきております。

この結果、テーラーメイド健康管理支援事業の売上高は1,565千円(前年同四半期比260.7%増)となったものの営業費用をカバーしきれず、セグメント損失(営業損失)は10,481千円(前年同四半期は8,665千円の損失)となりました。

## ③ 創薬事業

創薬事業につきましては、米国Eleison Pharmaceuticals, Inc. (Eleison社)とともに抗がん剤Glufosfamide(グルフォスファミド)の共同開発に取り組んでおります。Eleison社は、平成23年5月、Pharm-Olam International Ltd.をCROに選定し、平成24年2月には、開発資金を調達するなど第Ⅲ相臨床試験開始に向けた準備をしておりますが、第Ⅲ相臨床試験申請の遅れにより当該試験計画が遅延しております。

こうしたなか当社グループは、アジアの製薬企業を中心にライセンス交渉を進めてまいりましたが、具体的な成果を得るには至りませんでした。

この結果、創薬事業における売上高の計上はなく（前年同四半期の創薬事業の売上高は741千円）、セグメント損失（営業損失）は1,046千円（前年同四半期は306千円の損失）となりました。

④ 投資・投資育成事業

投資・投資育成事業につきましては、当第1四半期連結累計期間に保有株式の売却等はありませんでした（前年同四半期は売上高21,359千円）。また、投資先の事業状況等の精査の結果、投資損失引当金繰入額1,770千円を計上いたしました。これにより、セグメント損失（営業損失）は1,913千円（前年同四半期は8,607千円の利益）となりました。

⑤ その他

当第1四半期連結累計期間におきまして、新株予約権の行使期間満了により新株予約権戻入益6,540千円を特別利益として、また平成25年2月7日付で設置した第三者委員会に係る調査費用10,000千円を特別損失として計上しております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末における総資産は499,281千円となり、前連結会計年度末に比べ86,573千円増加いたしました。主な要因としては、現金及び預金の増加79,571千円、営業投資有価証券の増加7,856千円によるものであります。

負債は56,747千円であり、前連結会計年度末に比べ9,753千円増加いたしました。主な要因は、その他流動負債の増加16,820千円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ76,820千円増加し、442,533千円となりました。これは四半期純損失82,394千円を計上したものの、新株予約権の行使に伴い資本金及び資本剰余金がそれぞれ79,025千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年2月13日付「平成24年12月期決算短信」において公表いたしました平成25年12月期の連結業績予想に変更はございません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成25年1月1日以降に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これによる当第1四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、営業損失、経常損失、当期純損失及び営業活動によるキャッシュ・フローにおきまして前連結会計年度まで継続してマイナスを計上しており、当第1四半期連結累計期間におきましても営業損失65,972千円、経常損失78,358千円、四半期純損失82,394千円を計上するに至っており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループにおきましては、当該状況を解消すべく、「事業収益の拡大」及び「資産のキャッシュ化」を経営の柱として、引き続き安定した財務基盤の確立に努めてまいります。

4. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	177,064	256,636
受取手形及び売掛金	50,751	49,532
営業投資有価証券	145,185	153,042
投資損失引当金	△43,519	△45,290
商品及び製品	194	—
仕掛品	17,338	15,196
貯蔵品	2,472	2,813
その他	10,751	13,952
流動資産合計	360,240	445,883
固定資産		
有形固定資産	3,130	7,939
無形固定資産		
その他	25,453	23,025
無形固定資産合計	25,453	23,025
投資その他の資産		
投資その他の資産	28,691	27,242
貸倒引当金	△4,810	△4,810
投資その他の資産合計	23,881	22,432
固定資産合計	52,466	53,397
資産合計	412,707	499,281

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	4,023	1,814
未払法人税等	8,276	3,418
その他	34,693	51,513
流動負債合計	46,993	56,747
負債合計	46,993	56,747
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,346,667	2,425,692
資本剰余金	2,879,864	2,958,889
利益剰余金	△4,838,586	△4,920,981
株主資本合計	387,945	463,601
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△32,081	△22,754
その他の包括利益累計額合計	△32,081	△22,754
新株予約権	9,815	1,650
少数株主持分	33	37
純資産合計	365,713	442,533
負債純資産合計	412,707	499,281



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
売上高	82,120	47,675
売上原価	27,142	27,935
売上総利益	54,977	19,739
販売費及び一般管理費	64,139	85,711
営業損失(△)	△9,162	△65,972
営業外収益		
受取利息	10	11
投資損失引当金戻入額	2,278	—
受注損失引当金戻入額	811	—
貸倒引当金戻入額	574	—
その他	15	17
営業外収益合計	3,691	28
営業外費用		
支払手数料	83	9,530
投資事業組合等損失	—	2,473
為替差損	312	411
営業外費用合計	395	12,415
経常損失(△)	△5,866	△78,358
特別利益		
新株予約権戻入益	—	6,540
特別利益合計	—	6,540
特別損失		
特別調査費用	—	10,000
特別損失合計	—	10,000
税金等調整前四半期純損失(△)	△5,866	△81,818
法人税、住民税及び事業税	452	576
法人税等合計	452	576
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△6,319	△82,394
少数株主損失(△)	△0	△0
四半期純損失(△)	△6,319	△82,394

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△6,319	△82,394
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,919	9,326
その他の包括利益合計	8,919	9,326
四半期包括利益	2,600	△73,068
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,600	△73,067
少数株主に係る四半期包括利益	△0	△0

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	バイオマ ーカー創薬支 援事業	テーラーメ イド健康管 理支援事業	創薬事業	投資・投資 育成事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	59,585	434	741	21,359	82,120	—	82,120
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	59,585	434	741	21,359	82,120	—	82,120
セグメント利益又は損失 (△)	32,792	△8,665	△306	8,607	32,426	△41,589	△9,162

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△41,589千円は、各報告セグメントに配分していない当社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	バイオマ ーカー創薬支 援事業	テーラーメ イド健康管 理支援事業	創薬事業	投資・投資 育成事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	46,110	1,565	—	—	47,675	—	47,675
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	46,110	1,565	—	—	47,675	—	47,675
セグメント利益又は損失 (△)	10,364	△10,481	△1,046	△1,913	△3,077	△62,894	△65,972

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△62,894千円は、各報告セグメントに配分していない当社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成25年1月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

当該変更による当第1四半期連結累計期間のセグメント利益又は損失に与える影響は軽微であります。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成24年8月13日付発行の第5回新株予約権（第三者割当による行使価額修正条項付新株予約権）について権利行使を受けております。この結果、当第1四半期連結会計期間末において資本金が79,025千円、資本剰余金が79,025千円増加し、当第1四半期連結会計期間末において資本金が2,425,692千円、資本準備金が2,958,889千円となっております。